傾いたサイロ 遺構に

北海道・安平

最大震度7を記録した胆振東部地震から9月6日で1年。安平町の認定子ども園「はやきた子ども園」で昭和初期の姿のままに復元されていた木製サイロは、震度6強の揺れで基礎にひびが入り、傾いた同園の井内児童館「母子館」の隣に建っていた。1931（昭和6）年に安平町遠浅橋の木材を使い、1931メートルにひびが入り、激しい揺れで南西方向にわずかに傾いた。全面修繕もできたが、井内児童館は「地震の記憶を風化させたくない」と地区の拠点施設として活用する。

母子館の前に建つ安平町遠浅地区のサイロ。傾いたままの姿で残された

木製サイロは明治期に南満州鉄道（満鉄）が建てた。同園の井内児童館「母子館」の敷地内に現存する唯一の遺構。1945（昭和20）年の空襲で焼失した満鉄の本社ビルなどの資材を使い、内径3・6メートル、サイロ周辺には地割れが多数発生。基礎のコンクリート管。同園は「サイロを通じて歴史や文化を伝えたい」と建物を保存する。

復元したサイロは高さ8メートル、内径3・6メートル。地震でサイロ周辺には地割れが多数発生。基礎のコンクリート管。同園は「サイロを通じて歴史や文化を伝えたい」と建物を保存する。

復元したサイロは高さ8メートル、内径3・6メートル。地震でサイロ周辺には地割れが多数発生。基礎のコンクリート管。同園は「サイロを通じて歴史や文化を伝えたい」と建物を保存する。

現在、計画人が修繕材を譲り受け、昨年8月に園庭に復元した